

葱坊主空支へんと直立す

工藤泰子

葱坊主は空を支えようとしていたのか。そんな高い志があつたとは知らなんだ。今度から葱坊主を見る時は敬意を払わにやならんなあ。



ロダンの像背伸びしたくてあたたかし

田村米生

「考える人」は、ずっとあの姿勢のままでは、さぞくたびれるだろう。前屈みは寒い時季はいいが、そろそろ伸びをしたくなる頃だね。



あくびの猫ののどの奥まで春深し

吉川正紀子

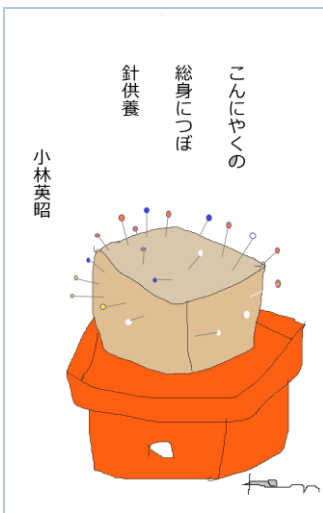
あくびの口の開き具合の大きさがよく見える。猫ののどの奥まで春でいっぱい満たされた長閑さ、平和な時間も上手く表現されている。



雪掻きや大地の背中に届きたり

北熊紀生

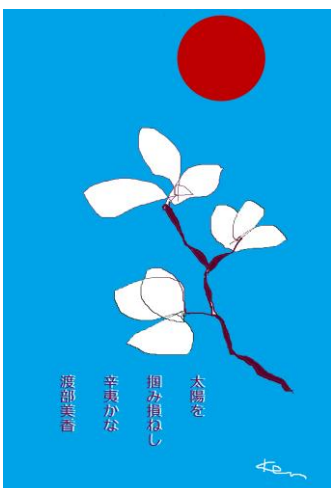
雪は冬物の分厚い洋服で、その下には大地の肌がある。さし
ずめ雪掻きの道具は、孫の手だね。大地は早く身軽になって
呼吸がしたいだろう。



こんにやくの総身につぼ針供養

小林英昭

針供養は、硬い布などを縫ってくたびれた針の労をねぎらうも
ので、蒟蒻や豆腐に刺される。蒟蒻も豆腐も痛がらないのは
全身つぼだったんだね。



太陽を掴み損ねし辛夷かな

渡部美香

蕾の形が握り拳に似ているところから名付けられた辛夷の
花。花びらは指ということになるが、太陽を掴むにはやわらか
く優しすぎるね。